

長野市中心市街地活性化基本計画評価専門委員会
第2回 もんぜんぷら座敷地利活用検討部会 議事録

日時：令和5年7月4日(火)午前10時～12時
場所：長野市ふれあい福祉センター5階ホール

出席委員：12名

柳沢部会長、石川副部会長、金澤委員、川北委員、古後委員、柄澤委員、植木委員、横田委員、青木委員、塚田（篤）委員、篠原委員、吉田委員

欠席委員：3名

塚田（ま）委員、太田委員、鈴木委員

- 1 開会
- 2 長野市都市整備部まちづくり課長あいさつ
- 3 もんぜんぷら座敷地利活用検討部会長あいさつ
- 4 事務局紹介
- 5 議事

（1）新田町交差点周辺エリアに導入する機能の検討について

資料1、資料2、資料3市民アンケート結果について（事務局から説明）

資料4ワーキンググループの検討結果について（事務局から説明）

部会長	新田町交差点周辺に関するまちづくりのアンケートの結果、もんぜんぷら座利用者のアンケート結果、ワーキンググループで検討した内容について説明いただいた。 新田町交差点周辺に関するまちづくりのアンケートについては、来街頻度、年齢、居住地区など様々な属性の人達がどのような施設を望んでいるのかということを知ることができるものであると思う。また、もんぜんぷら座利用者アンケートの結果を見ると、もんぜんぷら座への交通手段として自転車が多いことや、もんぜんぷら座を利用する理由として「目的に合う施設がここにしかない」・「自宅や用事がある施設に近い」という回答が多いことから、もんぜんぷら座は比較的周辺住民の利用が多いではないかと感じた。このように、アンケートは様々なことを示唆している。 これらアンケートの結果やワーキンググループで議論してきた経過等も踏まえ、特に今回はもんぜんぷら座敷地利活用を議論する上でのフレームとなる「新田町交差点エリアに導入する機能」について御意見をいただきたい。
委員	ワーキンググループの中では、残すべき既存機能から新田町交差点周辺エリアに必要な機能の方向へ議論をシフトしていくべきという意見が出た。

	周辺住民の利用が多いということは、逆に考えれば周辺住民しか使っていないということである。これは遠くから来る魅力がないということだと思う。中心市街地には魅力的な何かが必要だということだと思う。 もんぜんぷら座の敷地だけで全ての機能を満足させるのは難しい。新田町交差点周辺を含め広域的に考える必要があると思う。新田町交差点周辺全体を考える中でもんぜんぷら座に必要な機能は何かと考えた方がいいと思う。
部会長	新田町交差点周辺エリアにとって必要なものを検討する中で、もんぜんぷら座のことを考えるべきだという意見をいただいた。第1回もんぜんぷら座敷地利活用検討部会の際にも、同様の考え方に沿って議論をしていくものと意見をいただいているので、そのように検討部会を進めていきたいと思う。
委員	多くの方にアンケートに答えていただき、新田町交差点周辺に必要な機能については答えが出てきていると思う。 多くの人がもんぜんぷら座に行ってゆっくり楽しんだり、くつろいだり、自宅とは違う刺激がある、豊かな時間を過ごしたいと思っているのではないかなと思う。この場所でしかできないことがたくさんあると思う。
部会長	多くの人が自宅とは違う空間が欲しいのではないかなという意見をいただいた。 その他、新田町交差点周辺エリアに導入すべき機能について皆さんから御意見をいただきたい。
委員	残すべき機能よりも、まずは新田町を真っ先に考えてもらいたい。立派な意見も良いが、このままだとまちとして成り立たなくなってしまう。区費が入る工夫をしないとまちとしては死んでしまう。こういう意見も検討の中に入れていただきたい。
事務局	新田町交差点周辺エリアへの導入機能を検討する中で、地域に住まう方の意見は非常に重要だと思っている。また、もんぜんぷら座の跡地利用だけではなく、地域との関わりやコミュニティの維持ということは今後の長野市を考える上で非常に重要な課題だと認識しているので、関係各課と連携しながら対応していきたいと思う。
委員	ぜひお願いしたい。
部会長	中心市街地にある施設は老朽化しており、時代に即した更新も考えていかなければならない。まちの引継ぎ手がいなければまちが成り立たないということもよく存じ上げているが、まずはこのエリアにどのような機能を導入すれば良かに焦点を当てて御議論いただきたい。
委員	ワーキンググループに参加したことで、何が新田町交差点周辺に必要なのか考える機会を得ることができた。 アンケート結果にもあるが、商業施設は必要だと感じた。また、ワ

	ーキンググループでは図書館が必要という意見が出たが、そのような文化的施設があれば私自身も訪れる機会が増えるだろうと思った。 ワーキンググループの時にもんぜんぷら座へ行き、老朽化を目の当たりにした。中心市街地に住んでいるにも関わらず、もんぜんぷら座は出かける機会がない場所だった。それは私にとって魅力的な場所ではなかったからであり、そう感じている人も多いのではないか。現状、他地域から人が訪れたり、観光客が足を踏み入れようとする施設ではないと思う。その現状を打破しないと人は集まらないと思う。利用者が増えればまちにも人が増え、お金を落としていくという良い循環が生まれるはずである。ワーキンググループの中でも申し上げたが、特徴的な他にはない施設を作っていくかといけないと思う。図書館ということ言えば、例えば長野県に特化する、あるいは食に特化するなど何かに特化した蔵書だけを置くなどが考えられる。狭い場所できかに特徴を出していけるかがポイントになると思う。
部会長	商業施設や図書館といった施設が必要であり、他にはない特徴的な、何かに特化したものにすべきとの御意見をいただいた。
委員	アンケート結果をまだしっかり読み込んでいないが、中心市街地居住者とそれ以外の地域の居住者では必要だと思う機能に差ができている部分がある。長野市全体に比べて中心市街地の居住者の方が60歳以上の方が多い印象を受けたが、それが正しいのか伺いたい。 また、新田町交差点周辺に何が必要かという話だが、中心市街地には現在たくさんマンションが建っており、ここ10年程でまちの様子が変わってきたと感じている。もんぜんぷら座が建て替えられれば、それがまちの要になり、新しい人たちが入ってきて人口形態が大きく変わると思う。これから新田町交差点周辺がどんな地域になっていくのか、地域をどうつくっていくか、将来像を描いた上で機能を考えていきたいと思った。 若い世代の文化交流や、若い世代が地域に対して思いが持てるようなもの、そして住民を中心とした賑わいがあれば外からの来街者も増えると思う。商業施設等はそういうものに伴って自然と増えてくるものだと思う。公共だからこそ、まちがどんな姿になると良いかというところを検討できると良い。
事務局	中心市街地に居住する回答者の年代について、この場での回答は持ち合わせていない。
部会長	承知した。分かり次第、報告いただきたい。 まちの姿がどうなったらいいのかという点は大切な議論だと思う。長野市には長野市都市計画マスタープランというものがある。都市計画マスタープランは都市計画の基礎調査等に基づいた定量的なデータを揃えた上で、地域別の将来像についてまとめている。部会の中でもこれらを紹介していただきながら議論するのが良いと思う。今後の部

	会でお示しいただければと思う。
事務局	基礎調査の結果など必要なものを揃えて御提案したい。 また、昨年度長野市立地適正化計画を改定した中でも、特に長野駅から善光寺を中心とした中心市街地を長野市の一番の拠点として位置付け、そこに居住や都市機能を誘導していくことでコンパクトなまちにしていくことを前提としている。さらに、この新田町周辺は中央西地区市街地総合再生計画の中でまちの目標を「住みたいまちの実現～未来につなぐ人につなぐ門前都市ながの～」とした上で、都市の機能を「市民活動と情報発信により中心市街地の結節点となる地域」と位置付けているエリアである。その中で、活性化していくための施設導入をどう考えていくかであるが、それは公共だけにこだわっているわけではない。特に商業は公共ではできない。またもんぜんぷら座の敷地だけではなく新田町交差点周辺をどうしていくかという視点で御議論いただければと思う。
部会長	まずは新田町エリアに導入すべき必要な機能について御議論いただきたい。 計3回のワーキンググループの中で、新田町交差点周辺エリアに導入することが望ましい機能として議論していただいた、子育て支援、市民活動・交流支援、文化、青少年育成・生涯学習支援、観光・情報発信、商業の項目（資料4-3 ページ「2 新田町交差点周辺に導入することが望ましい機能」）について、意見をいただきたい。
副部会長	長野市中心市街地として新田町交差点周辺は1つの結節点だと思うが、今は求心力を失った地域になっていると思う。それはもんぜんぷら座だけの責任ではない。今後もんぜんぷら座跡地に導入すべき機能は、T0iG0の機能の見直しと併せて考えていく必要があるのではないかな。新田町交差点周辺に求心力がない要因の1つはT0iG0と八十二銀行だと思う。八十二銀行は長野銀行との合併もあって支店などの見直しが起こると思う。結節点として全体を考えていく必要があると思う。 少子高齢化が進み、経済成長が右肩上がりの時代とは違う社会の中で、豊かさをどのように実現していくかだが、その意味で長野市は豊かなまちになる可能性があると思っている。先の時代が読めない中であっても、今後まちの機能として行政が担うのは、子育て支援や若い世代というキーワードに関することだと思う。 市民アンケートで上位に出てきている機能は導入していかなければならないと思うが、どのように入れていけば良いかは非常に難しい。 今回はT0iG0の会議室と大会議室の稼働率の資料をいただきたい。具体的な機能という話ではないが、そのような視点も必要だと思う。
事務局	もんぜんぷら座既存建物自体は老朽化のため令和12年度には廃止が決まっており、機能を精査した上で解体をしていくことになっている。そのような中で、新田町交差点周辺に導入していく機能の検討にあた

	っては現在のT0iG0の公共施設部分の利用形態を含めた見直しも必要だと思っている。また、新たな施設の整備にあたっては、様々な市街地整備の手法があるので、ある程度導入する機能等がまとまってきた段階で整備の手法についても検討していきたいと考えている。 T0iG0を含めた周辺施設の利用状況については、第1回ワーキンググループの時に提示させていただいた。改めて資料の提示をさせていただく。
部会長	結節点ということを考えると、新田町交差点周辺エリアは非常に重要なところだと思う。事務局から説明があったように、具体的なことはこれから検討していかなければいけない。また、資料中に挙がっている「導入することが望ましい機能」がこのエリアの中に重複して存在している場合もある。それらをどこに配置するかについても検討していくことではあるが、まずは新田町交差点周辺エリアに必要なと思う機能について、特にワーキンググループで挙げていただいた6つの機能（資料4-3ページ「2新田町交差点周辺に導入することが望ましい機能」）について御意見をいただきたい。
委員	6つに分類されているが、よく見ると2つしかないと思う。青少年育成も子育て支援も一緒と考えることができると思う。一本化することが必要だとすれば、市民活動・交流支援、青少年育成・生涯学習支援、子育て支援の3つは若い人を集めるという意味にまとめられるのではないか。さらに、観光・情報発信と商業施設も一本化できると考えることもできる。つまり、文化を一旦置いておくと、2つしかない。若者層が集まりやすく未就学児から大学生までが行けるような場所と、観光の目玉になるものの2つである。 ただし、この2つを同じ場所に持ってくるのは非常に大変だと思う。どう周辺で分散させるかという方向に頭を切り替えないといけない。それらをもんぜんぷら座の1箇所に持ってくるのは非常に難しく、もんぜんぷら座だけで考えることは無理だと思う。
部会長	一本化できるものを考慮すると2つになるのではないかとということと、それらを同じ場所に導入することは到底不可能であり最適に配置しなければいけないという意見をいただいた。配置や分散については今後当然に出てくる議論だと思うが、もんぜんぷら座に限らず新田町交差点周辺エリアに必要な機能について御意見いただければと思う。 ワーキンググループで挙げていただいた6つの機能について、まずは賛成なのか、さらにここに追加が必要なのか等について御意見をいただきたい。
委員	新田町交差点周辺エリアに導入することが望ましい機能について、資料4-3ページのとおり、上手にまとめていただいた。 皆さんおっしゃるとおり、1つの建物の中に入れるのは難しいと思う。先の議論だと思うが、文化、観光、商業は1つにまとめられるよ

	うな気がする。また、子育て支援と青少年育成・生涯学習支援もまとめられるという意見にはなるほどと思った。 新田町交差点周辺に導入することが望ましい機能というまとめ方になっているので、もんぜんぷら座だけでなく新田町交差点周辺をどうするか考えないといけないと思った。都市計画マスタープラン等についても、新田町交差点周辺をどうするかということを考える中では頭へ入れておかなければと思う。 ワーキンググループの中で建物の外観デザインが重要であるという意見が出たが、これは大切なことだと思う。 機能を考える中で、もんぜんぷら座という名称も変える必要があるかもしれない。
部会長	子育て支援、市民活動交流支援、文化こういったものが新田町交差点周辺エリアに必要だという考え方で良いか。 ワーキンググループの中では、資新田町交差点周辺エリアとして機能充実を図っていく必要がある、または価値観が多様化し生活形態が変化していく中でも必要になると思う機能として、6つの機能を挙げていただいている。ここに挙げられた6つの機能に焦点を当てた御意見をいただきたい。
委員	「中心市街地にないといけないもの」と考えると全て該当しないことになる気がする。したがって、「若者が集まる中心市街地にするために何が必要か」と考えた方が良いと思う。例えば、学生だけでも長野市内に1万人近くいるのではないかと思います。その人達が集まる場所がない。その役割を中心市街地が担い、小さい子から大学生までみんなが集える場所にするというように、中心市街地として何が必要かと考えた方が良いのではないか。
委員	今の意見については難しいなというのが感想である。そもそも今の若い人は新田町交差点周辺が中心市街地だという認識がないと思う。中心市街地という認識がある人はダイエーなどがあつた時代を経験している人達だと思う。まちのそういった歴史を絶やさずに今風に賑わいをつくるという考え方でないと次の世代に繋がらないという印象がある。 とは言うものの、普段学生と接している中では、新田町交差点周辺は交通手段の問題があり、使いにくい場所である。駅の近くではないのでとても行きにくく、活動や授業で使いにくいという弱点がある。また、もんぜんぷら座で勉強している高校生は、善光寺周辺の高校に通う高校生が通学の途中に位置していることから利用している様子である。そのため、市内の離れた高校に通学する高校生がわざわざ訪れる場所とはなっていない。長野市には若者が集まる場所はないし、京都のような、学生のまちという雰囲気が薄い感じがある。そういう魅力を高めることはまちの課題だと思うが、やはり交通手段の問題等が

	あるので実際にそのような場所になり得るかは少し難しいところもある。塩尻市にある市民交流センター（えんぱーく）は駅から近い場所にあるので、若者が立ち寄る場所になっている。新田町の場合はまた事情が違うので難しさがある。 子育て支援といってもその中身には幅がある。例えば、安曇野市の子ども病院のように何かに特化したものが必要かもしれない。あるいは普段の子育てだと幼稚園など身近にある拠点のようなものが充実していた方が良いかもしれない。 行政でないといけないことは何かと考えた時に、通常のマーケットではうまくいかない子育てや若者の支援、文化が豊かになっていく活動を推進していく拠点になれば行政がやる意味があるのではないかと感じた。
部会長	一体どんな人達が集まるまちにするのかというところに帰着すると、振り出しに戻った感じがあるが、核になるものがないと将来的に市として生きていけないと思う。中心市街地としての魅力や機能が長野市中心市街地に十分あるわけではないが、善光寺を背負っていることである程度観光客も集められている。京都の話が出たが、国宝だらけの京都に住む人ですら一生に一度は善光寺に行きたいというほど、善光寺はそれくらいのところである。それによって表参道を中心にまちが成り立っていると考えると、中心市街地としてここは維持していくべきであり、ひいてはそれが長野市を維持することになると思う。 誰に来街してもらうかは難しい話だが、周囲には長野県立大学や信州大学があることも考えれば、当然若者には集ってもらいたいので、そのための機能は必要だと考えられると思う。 中心市街地という認識がないというのはそうだと思う。普通に生活している人は中心市街地という認識ではなく、ものがたくさんある、自分が住んでいるところよりはある程度の用が足せるところという認識だと思う。
事務局	中心市街地がどこなのかというのが一般の人達の認識だと思う。一方で、中心市街地がどこか分からない方であっても長野駅や善光寺の場所、それを結ぶ表参道がどこにあるのかは認識していると思う。新田町交差点はその表参道の間地点にある。第1回部会の時にお示しをさせていただいた長野中央西地区市街地総合再生計画では、中心市街地を長野駅周辺エリア、新田町交差点エリア、善光寺門前のエリア、城山エリア、権堂エリア、県庁と市役所のある官庁・業務集積エリアに分けている。新田町交差点周辺エリアについては、長野駅と善光寺という2つの核をつなぐ拠点であり、市民活動と情報発信によって中心市街地の結節点となることがこの地域に求められていると考えている。具体的には、様々な市民活動や文化交流拠点の形成、情報提供や情報発信を強化していくという位置付けをしていく中で、地域の

	方にとっても、外から来街する方にとっても拠点性があるものが必要ではないかと考えている。善光寺門前エリアや周辺エリアで地域ごとに様々な取り組みがあるが、今回はもんぜんぷら座が令和12年度で廃止になるという中で、このエリアの拠点性をいかに高めていくかということで御意見をいただきたい。新田町交差点周辺エリアについての基本的な考え方ということで言えば、これをベースに置いて議論いただければと思う。
委員	私はここに中心市街地をつくるという考え方でいいと思う。どこかということ定義してもあまり意味がない。固定資産税が一番高い地域が中心市街地だと思っている。歩行者が一番多いとかではなく、一番税金を納めている場所、路線価が一番高いところが中心市街地だと思っている。ここ新田町交差点周辺エリアを市の中で路線価が一番高い場所にすることが重要だと思う。善光寺表参道の間地点にあるこの新田町交差点周辺エリアが一番中心市街地をつくりやすい場所であると考えるのが良いと思う。
部会長	今後の話を進めていくためには、まちや地区個別の課題等はあると思うが、まずはどんな機能を充実させるべきかという前提がないと、もんぜんぷら座をどうするのかという話に行きつかない。 その中で、若者に来てほしいという観点から、子育て支援、青少年育成・生涯学習支援を新田町交差点周辺エリアに導入することが望ましい機能の案として出していただいたと思う。 さらに、市民活動・交流支援の中には観光客との交流ということも記載されている。観光客と地元住民との交流ができるようにし、交流によってリピートしていただきたいということだと思う。幅広い世代との交流という点では、市民活動によって豊かな生活ができる、そういった場が必要であると思う。それからその1つとして文化というものがある。図書館なども含まれる話になるが、幅広い世代が交流できる、他にはないということも、集まることで人々が交流できるということでこういう意見が出てきたのではないかなと思う。 また観光・情報発信ということと言うと、情報発信の場としての意味があるのだということも書かれている。近場のことであれ、中山間地の観光地のことであれ、情報発信をするのであれば中心市街地であろうということで、これも挙げていただいたのではないかなと思う。 また、アンケート結果を見ると、どの切り口から見ても商業が第1位に挙がっている。やはり商業は欠かせないだろうということで挙げていただいたと思うが、よろしいか。 年代、中心市街地居住者かそれ以外か、来街頻度などの観点からアンケート結果をみても、上位5つくらいは同じようなものが入っていることも合わせて考えると、ここに導入することが望ましい機能としてワーキンググループで挙げていただいたものは間違いのないと思って

	いるが、よろしいか。
副部会長	稽古場として使えるスタジオ機能は追加の機能として検討していただきたい。市民芸術館にもスタジオはあるが、若い人たちの音楽や演劇、ダンスの稽古ができるような防音設備のある、使用時間などニーズに合わせたスタジオ施設も必要だと思う。運営方法等ソフトの部分も大胆なものを検討してほしい。例えば、現在公民館は21時までしか使えないので、働いている人達は就業後に集まっても長時間使うことができない。コストの問題等はあるが、少なくとも22時まで使える施設にするなども検討してほしい。本日は具体的にこういうことを言う場ではないが、若者たちが使いたくなる施設にするには若者たちの意見を聞かなくてはいけないのではないかなと思う。諏訪市では、高校生たちが放課後に行く場所がないということで、古い銭湯を彼らに改修させた。そうすると学生たちはそこに勉強できる施設とスタジオを作ったという。若い人たちの意見も具体的に取り入れながら、機能的な、今までの行政とは違う運営方法も考えていただきたい。 また、小布施町役場の中にまちづくりを研究している大学生達のサテライト研究施設があった。長野市がこれから子育て支援や女性の働き方を積極的に支援していくという姿勢を示すために、そのような研究施設を入れていくのも良いのではないかなと思う。そこまでお金はかからないし、場所も狭くて良い。そうすれば提携した東京の大学と地元学生の交流などもできると思う。
委員	私もワーキンググループに参加させていただいたので、資料にまとめていただいた内容に対して異論はない。 若者を中心に考えていくという視点では、今長野市は若者スクウェアというものを作ろうと動いている。長野市は若者が企画し、手作りで、運営も考えるという、若者が考えた場をつくろうとしているところである。そういった機能を充実させていく思考は必要だと思う。若者が集まって地域のことや長野市のことに関心を持って、活動と一緒に参加してくれると活力になるし、私たちも元気をもらえると思うので、そうした視点を大事にしたいと思っている。また、もう1つ若者ということ言えば、新田町の旧ダイエー駐車場1階に学びの拠点というものがある。これは長野県NPOセンターがクラウドファンディングで寄付を募って運営している、学校に行きづらい学生や居場所がない若者が立ち寄れる場所であるが、そうした居場所が欲しい若者を大事にするという視点も必要だと思う。
委員	そうは言っても地域の活動に学生はなかなか出てこない。出てくるのは長野県立大学の学生とこどもの城である。区費を払わない人はまちを応援しない。区費が払われないとまちが活性化しない。
事務局	もんぜんぷら座の防音施設であるぷら座BOXは、近年はコロナの影響で利用率は下がっているが、コロナ前の利用率は非常に高い状況であ

	った。長野市芸術館についても防音施設は利用率が高いので、第1回ワーキンググループの際にも稼働率が高い施設の取り扱いについては検討しないといけないという意見をいただいている。また、若者の居場所については、市で若者の居場所づくりを企画している。もんぜんぷら座の廃止が決まっているので限定的な期間ということになるが、若者が中心となってそこをベースキャンプとして進めていくというものを検討しており、あと数回ワークショップのようなものをやりながら進めていくと聞いている。
委員	地域の実情を理解した上で若者が集まって地域のことに参加してほしいという意味も含めて、機会があれば地域の実情について若者に知っていただく機会を提供していきたいと思う。
委員	若者の居場所自体は良いことなので反対はしないが、区費は払ってほしい。私がここに出ているのは、まちをなんとかしたいからである。
委員	先ほどの若者スクウェアの話だが、学生が考えて市がそれをサポートしていくというように進められれば本当に良いと思う。先日信州大学工学部の県外出身の学生と話す機会があったが、地域の人達と交流したくてもなかなか機会がないという話を聞いた。学生が集まる場所はこれから必要だと思う。金沢市のように市がしっかりとやっていたくというのが良いと思う。よろしく願いたい。
委員	中心市街地が盛り上がっていくためには、まちの中で歩いて色々なことが楽しめる、働きやすい、そして住みやすいということが重要だと思う。住みやすいという観点において、子育て支援とか文化交流などの機能は重要だと思う。商業についても働きやすいというところに関連する。中心市街地は若干働く場所が足りなくなっているのではないかという印象がある。中心市街地の中では、古い建物をオフィスとして活用する人がいたり、働く人口もおそらく増えていると思うが、東京から進出したいという企業から相談を受けてリサーチした際に、働く場が少し足りないと感じた。職住近接のまちの中で色々なことが盛り上がっていくと良い。 就労支援について、ワーキンググループの検討の中で新田町交差点周辺に必要なとされていることが気になった（資料4-1ページ）。また、公共でつくるかどうかは別として、お店とは別に機能として働く場がこの周辺に整っていくと良いと思う。
事務局	オフィスについて、長野市内、特に中心市街地には床面積的には多くあるが、古くなってきていて設備的にマッチングしないという話は聞いている。その意味で、新しいオフィス床のニーズがあることは情報として入ってきている。 また、就労支援について、もんぜんぷら座の就労支援とはハローワークを指しており、ハローワークはむしろ駅前にあった方が良いのではないかという意味で、この新田町交差点周辺エリアにある必要はな

	いのではないかと、もしかしたら別の場所の可能性があるのでないかという意味合いである。
部会長	終了時間が近づいてきたため、まとめさせていただきたい。次回以降はもんぜんぷら座に導入すべき機能について具体的に入っていくが、まずその前段として、若者が集まり活動する場が必要ということも踏まえた上で、ワーキンググループで出していただいた、子育て支援機能、市民活動交流支援機能、文化機能、青少年育成生涯学習支援機能、観光情報発信機能、商業機能、これら新田町交差点周辺エリアに必要な機能として進めさせていただいてよろしいか。 その後に、施設をどう配置していけばいいのか検討した上で、もんぜんぷら座跡地に必要なもの、もんぜんぷら座の既存機能の取り扱いについて議論していただく、というように進めさせていただきたい。 建物外観デザインについては、景観条例等との整合性を踏まえた上で検討していく必要があると思う。 また、市街地再開発事業の活用など、周辺街区を含めた機能の導入についても留意点として進めさせていただけたらと思っている。 今後、人口減少、少子高齢化の中で集約型の都市構造は避けては通れない。その集約化に必要な重要な施設に位置付けられるかどうかということも考えていただけると良い。 長野市はウォークアブルなまちを掲げており、新田町交差点北側では中央通り歩行者優先道路化による歩行者に優しい取り組みをしているので、そことの整合も図っていただくことを前提に進めていただければと思う。 次回はそのように進めさせていただいてもよろしいか。 よろしいということで、次回もよろしくお願いしたい。

(2) 検討スケジュールについて

資料5	(説明者：事務局から説明)
	質疑無し